

インフルエンザ感染症の施設内集団感染を経験して ～恐怖と不安の 21 日間～

介護老人保健施設 サンセリテのがた
城之園 誠、春別府稔仁、杉山ミサエ、岡元 望

抄録要旨：今冬、施設内で同時期に多数のインフルエンザ感染者が発生する事態を経験した。感染エリアを担当する職員の就労体制（動線）を他と完全に区別することが感染拡大抑止につながったため検証と考察を加えて報告する。

【はじめに】

当施設では日頃から感染対策委員会を中心に、感染症対策マニュアルを作成して感染症対策に取り組んでいる。今冬施設内において、開設以来経験しなかった季節性インフルエンザの集団感染が発生した。感染者の隔離と治療に加えて、職員の就労ならびに移動時の動線を区分し隔離することで、感染拡大を抑止できたと考えられ、考察を加えて報告する。

【経過（発生状況）】

平成 21 年 3 月 11 日、介護職員 1 名がインフルエンザ A 型を発症し、翌 12 日に入所者 1 名のインフルエンザ A 型が確認された。以降 15 日 7 名、16 日 1 名、17 日 2 名、18 日 3 名、19 日 1 名、20 日 1 名、24 日 1 名の入所者にインフルエンザ陽性が確認された。職員においては 13 日、19 日に各 1 名ずつ陽性者が発生し、24 日までに入所者 17 名、職員 3 名がインフルエンザ感染症（全員 A 型で、うち 1 名は A 型 B 型に感染）に罹患した。罹患者は職員を含めて全員が今季のインフルエンザ予防接種を受けていた。

【対応】

3 月 11 日職員発症の時点で、手指消毒とうがいの徹底、面会制限、感染者用居室の設置を決め、感染職員は出勤停止とした。入所者の検温と体調の観察を強化し、体調の変化を認めれば、程度に関わらずインフルエンザ簡易キットによる検査を実施した。感染者の居室では介護者はディスポーザブルのガウン、マスク、手袋を使用した。3 月 15 日に入所者 7 名が同時発症したため、「非常事態」として、家族ならびに行政各機関（保健所、地域振興局、町役場）への報告を行い、感染対策委員会が中心となり全職員による対応を開始した。換気と温・湿度の調節を徹底し、防火用ガラス冊子で完全に隔離できる居室棟（7 室、15 ベッド）を「感染症隔離棟（感染エリア）」と定め、簡易キットで陽性を示した入所者を隔離した。職員の対応として、感染エリアの職員を終日専従勤務として、非感染エリア職員の感染エリアへの立ち入りを禁じ、また感染エリアの職員は、出勤から帰宅まで非感染エリアへ入ることがないように専用の更衣室、食堂、トイレ、施設出入り口を特設して、

就労と移動の動線を感染・非感染エリア間で完全に区分して、入所者のみならず職員の業務と動線をも隔離する方法をとった。感染者の症状は、主に発熱、倦怠感、軽度の呼吸器症状で、発症後速やかに対処療法を開始し、感染陽性が確認された時点でインフルエンザ治療薬（以下治療薬）を投与した。11日以降の発生状況から更なる感染拡大も危惧され、19日より非感染者全員に治療薬の予防的投与を行った。今回の集団感染では、幸い重症に至る症例はなかった。20日より感染者の検査陰性が確認され始め、24日に陽性者が発生したのを最後に新規発生はなく、29日には隔離した全ての入所者の、検査陰性と症状の改善が確認された。25日にはインフルエンザ感染に関する「非常事態」の全面解除を決定し、31日に保健所より解除の了解を得た。

【考察】

高齢者施設で感染症が蔓延する要因の一つに、施設職員による感染媒介が挙げられる。今回の集団感染は、1名の職員の発症を機に、その職員が担当する居室棟で起こっており、職員の感染媒介による集団発生であったと考えざるを得ない。当施設では、予てから通年的に換気扇と窓や吸排気口による換気を徹底していたが、今年1月に室温維持の目的で一部を除く換気扇を停止した。施設開設時より換気扇を停止したことが無く、今年初めて行ったが、その後に集団感染していることから、換気効率の低下が感染の蔓延に影響したのではないかと推測した。集団発生への対策として1)手洗い、うがい、マスク、ガウン装着の徹底2)感染者隔離3)家族の面会禁止4)換気の徹底5)感染エリアの職員の業務と動線の隔離6)簡易キットによる早期検査7)入所者全員への治療薬投与を実施したが、中でも速やかな検査の実施による早期の感染陽性者の隔離、全入所者への治療薬投与、感染エリアの職員の業務と移動の動線の隔離は、その後に新規発生が減少、消失していることから拡大の抑止に大きく加担したと判断できる。

【まとめ】

施設内における季節性インフルエンザの集団感染を経験した。集団感染の抑止効果が高い対応策を以下に掲げる。1)感染エリアを担当する職員の業務と移動の動線を、非感染エリアから完全に区分して隔離する。2)感染陽性者の早期発見と隔離。3)非感染者の治療薬の予防的服用。4)換気、湿度、室温など施設環境の整備。

【結語】

高齢者施設では毎年季節性インフルエンザの予防接種を実施しており、感染の予防効果は既に周知されている。今回のようなインフルエンザワクチン接種者での集団感染は、施設における感染症対策に大きな恐怖と不安を与える。集団発生時の対応を事前に検討し、詳細なマニュアルを作成しておくことが、事態の悪化を最小限に抑える得策と考える。